

# 今後の指導方法構築のための卒業研究論文の内容分析

太田 静江

帝京短期大学 生活科学科

Content analysis of the graduation thesis for future teaching method construction

Shizue Ota

Department of Living Science, Teikyo Junior College

## Abstract

In order to build the method of instruction for graduation thesis research of the future in teacher charge of Yogo teacher course, content analysis was conducted about 254 graduation theses of previously published book. It had much interest in an understanding of the state and health issue of mind and body and a life of the child who is an object of school health.

Although it is a small number of the practice domain of health room is also performed.

However, there are few viewpoint of how to tackle problems and many have stopped at the present grasp. In the present second grader, the student who feels difficulty for a subject setup of a paper, textizing, and a statistical work half. While there were some students who became positive thinking by inquiring, there is also a student who feels research for the burden and positive thinking was looked at by motivation. It was considered to be necessity to carry out group discussion training, such as it being alike and reading in the special nature of the instructor of seminar form a precedence paper, a case study, etc., employing the advantage of a charge system efficiently based on this.

**Keywords :** Yogo teacher, Graduation thesis, Educational approach

## 要 旨

養護教諭コースでの今後の卒業論文研究のための指導法を構築するために、既刊の卒業論文254件について内容分析を行った結果、学校保健の対象である児童の心身、生活の状況・健康問題の理解に多くの関心を寄せ、アンケート調査などで実態の把握にあたっている。少数であるが、保健室の実践活動領域の研究も行っている。しかし、諸問題に、どう取り組むかの視点が少なく、現状の把握に留まっているものが多い。本学実習要項にある(4)養護教育実習目標の5領域(①養護教諭の役割の理解②子どもの特質③子どもの問題に取り組む能力④実践的な研究能力⑤養護教諭としての課題)の内、4領域への到達には課題が残る。また、現2年生では、論文の課題設定や文章化、統計処理に困難を感じている学生も約半数を占める。研究することによって、ポジティブ志向になった学生もいる反面、卒業研究を負担に感じている学生もあり、学生のモチベーションに二相性が見られた。このことを踏まえて、担任制の利点を生かしながら、ゼミ形式の教官の専門性や、先行論文・事例研究を共に読み込むなどの集団討論研修を取り入れながらの指導体制の確立を可能にしたい。

**キーワード :** 養護教諭、卒業研究論文、教育的アプローチ

## 1. はじめに

養護実習指導Ⅱに卒業論文の指導があり、その対応に側面から関わってみると、卒論を書けない学生、卒論のために相当のエネルギーを使いながら、必ずしもそれだけの教育的効果をあげ得ない学生が多いのではないか<sup>1)</sup>という問題に立ち至った。

近年資格取得に重点を置かれた大学において、ややもすると、実習に追われ、資格取得のための試験対策に重点が置かれ、必ずしも十分な卒業研究に取り組みない大学が多くなってきているように思われる。

そんな中で、過去に単位として全員に課していないが卒業研究の必要性を説き、時間的にも困難な状況にありながらも、研究論文を完成させることで、論理的

思考ができるようになり、成就感を味わうことで、自己肯定感も高め、教職試験に向かう姿勢が違ってきた数人の学生が、今年、東京都・千葉県・群馬県に合格を果たした。

幼児教育、初等中等教育には指導指針や学習指導要領、生徒指導要録等があり、これに基づいて教育が行われている。高等教育においては、大学設置基準等に照らし、各大学が教育理念を掲げ、これに基づいて行っている。卒業論文・卒業研究・卒業制作等の授業科目については、教育課程の単位の3項に、これらの学修の成果を評して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる<sup>2)</sup>。とある。

理科系の大学においては、卒業論文は、担当教官のゼミを中心として制作されることが多く、文系においては、実施されていない大学もあり、各大学の定めに任されている。

また、1982年以降の「論集」—学校法人麻布学園における中学生・高校生の自由研究・卒業研究<sup>3)</sup>がある。中等教育での卒業研究としてはよく知られている。

本学に養護教諭コースが設けられたのは平成10年であり、養護教諭2種免許を取得する教育課程である。養護教育実習は、この免許取得のために必須となる科目であり、学内での学習内容を基礎として養護教諭の実践的な活動を体験し、理論と実践を統合させていく過程である。教員免許取得の条件を定めた教職員免許法では養護実習は単位数のみが規定されており、その具体的内容、方法は、各教育機関の裁量に任されている。本学においては、「実習要項」「養護教諭教育実習日誌」<sup>4)</sup>を刊行し、養護教育実習の目的・目標が示されている。その中で、実習のまとめとして、卒業研究論文の作成、報告会、実習校への提出が定められている。

そして、卒業研究論文集として学生に卒業論文作成を課して7年目であり、第6巻までが保存されている。

(第一巻46例 第2巻65例 第3巻40例 第4巻37例 第5巻28例 第6巻38例 計254例)

本学生活科学科養護教諭コースの指導教員1名あたり、12名前後の学生の卒業論文指導に当たっている、担任による指導体制である。

学生の学力・文章力・問題発掘力・研究熱等の低下が言われて久しい。しかし、卒業後に教職に就く学生に対する教育として、教育学等の基礎的教養と養護概説等の幅広い基礎的知識と養護実践に対する鋭い問題意識の形成は欠かせない。

本学における養護教諭2種免許取得のための過密な

カリキュラムの中で、いかに、モチベーションを維持させながら、卒業研究に向かうよう指導すべきか、大きな課題である。

## 2. 目的

今後の学生卒業研究論文作成の指導に資するため。

- 1) 既刊の卒業論文集254例の内容分析を行い、学生の研究課題の傾向・研究方法等から、今後の教育的アプローチの示唆を得る。
- 2) 現2年生にアンケート調査を行い、卒業研究について学生の取り組み方を知る。

## 3. 研究方法

- 1) 2008年から2013年に本学生活科学科生活科学専攻養護教諭コースの学生が取り組んだ254例の卒業研究論文を分析対象とした。
  - (1) 既刊の卒業研究論文集254例のテーマについて学校保健の領域構造<sup>5)</sup>による分類をした。
  - (2) 具体的な内容を知るためにKJ法<sup>6)</sup>により整理分類した。
  - (3) 卒業研究論文の研究手法や、実習目標の領域別<sup>4)</sup>に研究内容を分析する。
- 2) 現2年生37名のアンケート調査により卒業研究についての取り組みの問題点を抽出した。

## 4. 結果

卒業研究テーマについてみると、学校保健の領域別<sup>5)</sup>では、保健管理の分野が53.0%で最も多く、保健教育が33.0%、養護教諭の資質の問題、保健室活動の事務的問題などをその他としたが14.0%、組織活動においては皆無であった。(表1) また、経年的には、平成20年度では保健管理の分野が最も多く64.6%にも及び、平成23年度では保健教育の分野で60.7%にも及んでいる。(表1)(図1)(図2)

また、テーマの内容についてKJ法<sup>6)</sup>により分類してみると、5つのカテゴリーに分類することが出来た。(表2)

- ①保健室の機能としての活動にかかわる問題
- ②子どもの生活にかかわる健康問題
- ③子どもの病気にかかわる健康問題
- ④子どもの心の健康問題
- ⑤その他

であった。(表2)

その中で、②子どもの生活にかかわる健康問題が101件、39.8%で、①保健室の機能としての活動にか

表1. 学校保健の領域構造からの分類<sup>5)</sup>

n = 254

	学校保健管理						保健教育		組織活動	その他	計
	健康診断活動に関するもの	感染症に関するもの	児童生徒の健康状態に関するもの	健康相談活動に関するもの	救急処置に関するもの	保健室利用状況	保健学習に関するもの	保健指導に関するもの	組織活動	養護教諭の業務研究 養護教諭の資質に関するもの等	
H19年度	3	1	12	2	0	7	7	3	0	11	46
H20年度	4	0	24	0	0	14	10	4	0	9	65
H21年度	0	0	7	2	0	10	10	5	0	6	40
H22年度	1	0	9	1	1	6	8	7	0	4	37
H23年度	1	0	3	0	0	3	10	7	0	4	28
H24年度	1	1	11	2	3	5	7	5	0	3	38
計	10	2	66	7	4	45	52	31	0	37	254

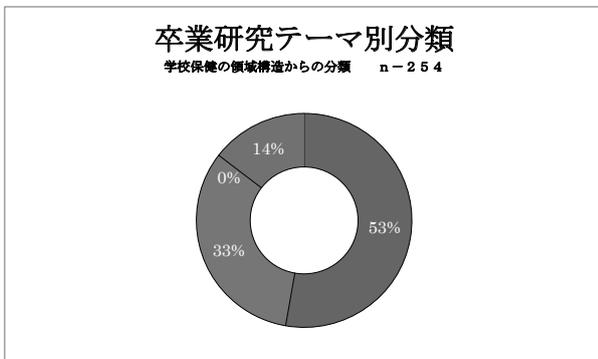


図1. 卒業研究テーマ別分類

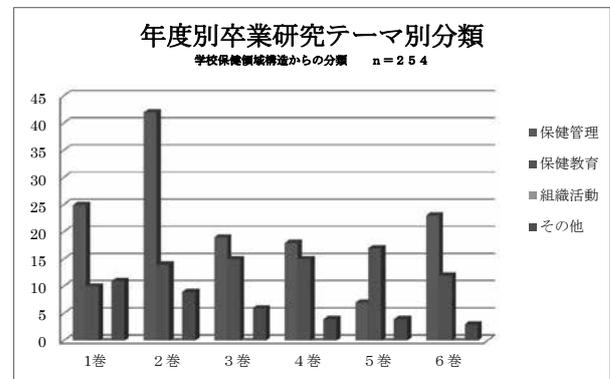


図2. 年度別卒業研究テーマ別分類（学校保健領域から）

かわる問題が98件、38.6%であった。

本学が設定している養護教諭教育実習の目標5領域<sup>4)</sup>（5領域：①学校保健活動及び養護教諭の職務を教育活動の一環としてとらえ、保健室の在り方及び養護教諭の果たすべき役割を理解する。②「養護」の対象である子どもの心身・生活の状況及び子どもの健康問題の特質を理解する。③子供の保護、養護上の問題に対して、個別的及び組織的な取り組みができる能力を養う。④教育専門職としての研究活動の実践を知るとともに実践的な研究能力を養う。⑤養護教諭への志向を高めるとともに、養護教諭になるために自らの課題について理解し研鑽する。）254事例をこの5領域に分けて整理した。②子ども理解のための研究課題が170例で最も多く設定されていた。次いで③個別的、組織的な取り組み（支援技術）が42例（養護教諭の児童への対応の仕方、心の相談事例研究通級学級の支援等）①養護教諭の職務理解では、健康診断、保健学習、保健指導、保健室経営等37例④研究活動の実践能力を養うについては分類が困難であったが、発達障害と集団行動の研究、メディアリテラシー等3例

⑤養護教諭の志向を高め、その課題については、実習校の特徴、複数配置等2例であった。（図3）

研究の方法について見ると、文献研究のみが96件37.8% アンケート調査実施では、115件42.5% 調査研究5件1.9% アンケートと文献研究の併合5件1.9% 文献研究と調査研究の併合10件3.9% アンケートと調査研究の併合20件7.8% アンケートと文献研究と調査研究の3併合3件1.2%であった。（図4）（調査研究とは、言葉かけなど実際に支援した複数事例についてエピソード分類やプロセスレコードを駆使して考察等を加えているもの、健康教育実施後、どの程度児童の理解を得られたか等について再度調査し考察しているもの等として整理した）

卒業研究論文の仕上げに取り掛かっている現2年生37名に卒業研究に関する取り組み方についてのアンケート調査をおこなった。

①テーマ設定のきっかけは何かについては、自分が以前から気になっていた問題が15件、養護教育実習で問題意識をもったが10件、本学卒業研究集を参考にしたが6件、SAM（渋谷区教育ボランティア）に

表2. KJ法による内容の分類<sup>4)</sup>

カテゴリー	サブカテゴリー	件数	%
1 保健室の機能としての活動にかかわる問題	来室状況(子供の実態)－43 救急処置(手当の仕方)－4 養護教諭の児童生徒への対応の仕方－25 健康診断－10(内歯科－1) 健康相談－7 保健室経営－2 保健室事務－3 宿泊学習の対応の仕方－1 連携－3	98	38.6
2 子どもの生活にかかわる健康問題	生活リズム－21 睡眠－24 朝食・食生活－21 運動－3 ダイエット－6 姿勢－5 歯磨き－11 咀嚼－6 手洗い－2 排便習慣－1 遊び－1	101	39.8
3 子どもの疾病にかかわる健康問題	生活習慣病－3 PTSD－1 熱中症－1 金属アレルギー－1 アレルギー－1 喘息－1 エイズ+性教育－6 肩こり－1 うつ病－2 視力低下－5 コンタクトレンズ－1 感染症－2 たばこの害－5	30	11.8
4 子どものこころの健康問題	コミュニケーション能力－9 悩みについて－3 ストレスに関すること－1 軽度発達障害と集団行動－1 問題児の事例研究－2 こころの相談事例－3 通級学級－2 不定愁訴－1	22	8.7
5 その他	複数配置－1 実習校の特徴－1 メディアリテラシー－1	3	1.1
計		254	100.0

(n = 254)

参加して問題意識を持ったが6件、一日教育参加で問題意識を持ったが3件であった。(図5)

②卒業研究をすることは、あなたにとってどれにあたるかについては(一つのみを選択)、肯定的なもの(・学びの集大成であり、大変だが、やる気を起こすことができた・研究のプロセスを学ぶことが、これか

らの仕事に生かせる・短大生として当然のこと)にとらえている学生20名で、54%、負担(・大変苦痛である・心身ともに負担を感じる)を感じている学生は17名で、46%であった。(図6)

③卒業研究で困難なことは何ですか(複数回答可)については、・文章にすることが難しかったが24件、

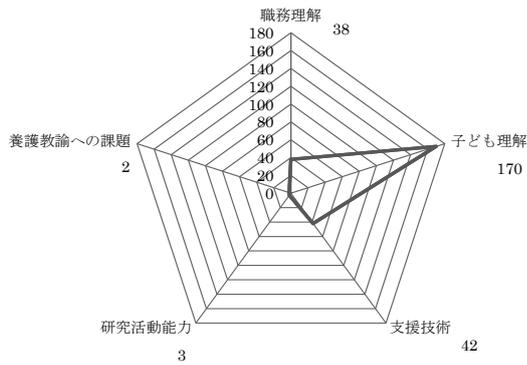


図3. 養護教諭教育実習の目標5 領域別に見た研究課題内容

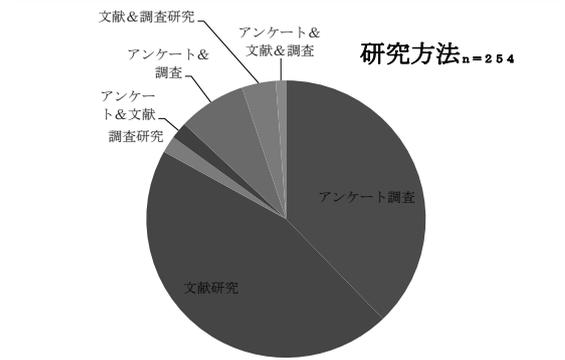


図4. 研究方法

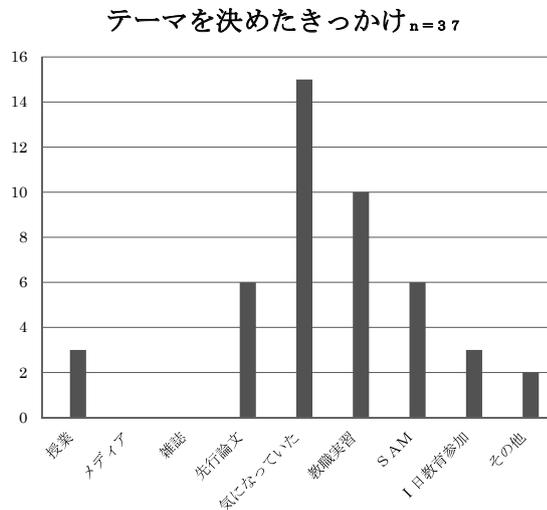


図5. 卒業研究のテーマを決めたきっかけは何ですか

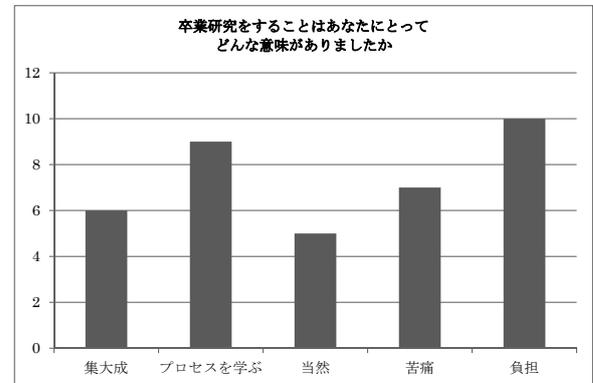


図6. 卒業研究をすることは、あなたにとってどんな意味がありましたか

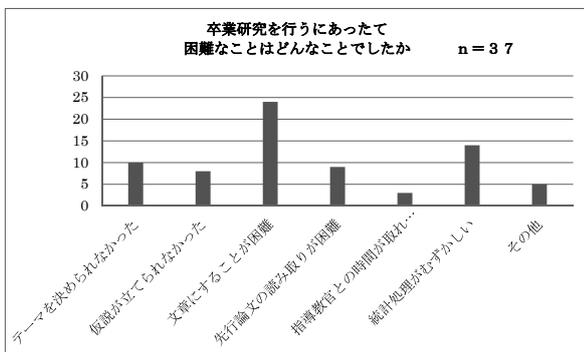


図7. 卒業研究を行うにあたって困難なことはどんなことでしたか

表3. ②卒業研究を行うにあたって、どのような情報や指導が欲しいですか（自由書き）

- 文献不足を補ってほしい－4
- 何を参考にしてよいかわからなかった－1
- 書き方自体わからなかった－2
- 自分の研究にあった情報がない－8
- つまずいた時の幅広い指導が欲しい－3
- まとめ方がわからない－1
- いつでも、指導してもらえる体制が欲しい－1
- 流れがつかめない－1
- グラフや表の作り方がわからない－1
- パソコンを増やしてほしい－2
- 研究の進め方がわからない－1
- 記載なし－14

表4. ⑤卒業研究を行ったことで、自分の変化について一言書いてください。（自由記載）

- 文献研究の面白さを感じた－1
- 実習校で学んだことを形にすることで学習が深まった－1
- 考えをまとめることの大切さを知った－1
- 達成感が得られた－1
- 養護教諭になったとき、何を意識していくかがわかった－1
- 社会人になるために必要なこと－1
- 新聞などを意識して、自分の求める情報がないか探すようになった－1
- テーマについて自分の中で敏感になった－3
- テーマについて意識するようになった－2
- テーマについて興味を持つことができるようになった－1
- 卒業意欲が高まった－1
- データなどで根拠のあることを述べる重要性を知った－1
- 学校全体のことと向き合えるようになった－1
- 時代の変化を感じ取れた－1
- 調べてみたいと思うようになった－1
- 今までの学びが生かせるようになった－1
- 意欲がわかなかった－6
- 人前で話すのが苦手と感じた－1
- 時間に追われている－5
- 記載なし－8

統計処理が困難であった14件、テーマがなかなか決められなかったが10件であった。（図7）

④卒業研究を行うにあたって、どのような情報や指導が欲しかったかについて自由記載でおこなった。（表3）

⑤卒業研究を行ったことで、自分の変化についても自由記載でおこなった。（表4）の通りであった。

## 5. 考 察

卒業研究論文のテーマを学校保健領域別にみると保健管理分野が半数以上を占めている。しかし、内容的には、子供の生活管理としての児童生徒の健康状態に関することが多数を占めている。このことは、KJ法による内容の分析においてもカテゴリー②、③、④の子どもの生活にかかわる健康問題、疾病にかかわる健康問題、心の健康問題に多くのテーマがある。ほとんどが子どもの実態に関心を寄せている。保健管理の主体管理としての健康診断や、健康相談、救急処置などの事例は少なく、子どもの来室状況など子どもの実態を知ること集約されている。養護実習目標5領域の分類においても、②対象である子どもの健康問題の理解が最も多かった。

③の支援技術としての救急処置・相談活動等の研究数が少ないのは、看護系の養護教諭養成ではないだけに力を入れてほしい分野であり、今後、大いに取り組んで欲しい問題である。環境管理・生活管理についての研究はなかった。

保健教育の分野については、33%が関心を示し、KJ法においても、カテゴリー①保健室の機能としての活動の中で、養護教諭の対応の仕方や健康相談で保健指導がなされていた。児童会や学級活動、クラブ活動等での保健指導研究はなかった。また、多くの関心が寄せられているKJ法カテゴリー②、③、④の子どもの健康問題中で、52件の保健学習が実施されていた。

学校保健組織活動の分野においては皆無であり、実習校との関係や、学校行政の広い観点に関心を寄せるのは学生としては困難であったと思われる。

また、研究方法においては、文献研究が最も多く、保健学習・保健指導のための基礎資料としてのアンケート調査も実施しているが、アンケート・文献・調査を駆使しているものは3名のみ、研究を深めていく意味で、大いに活用してもらいたい。

現2年生に行った調査では、授業からの課題抽出は少なく、学生自身が気になっていた問題としている。

教育実習・SAM・一日教育参加からのテーマ決めが19件あることは、このような実践活動が学生に、

大いに刺激を与えていることと評価できる。

学生にとって、卒業研究はどのような意味があるかとの問いでは、大学生として当然・学びの集大成等ポジティブに考えているもの19件、苦痛や負担に感じているもの17件であり、研究を行うことで自分の変化についても、ポジティブ思考が19件。ネガティブ志向が12件記載なしが8件などの状況を見ると、学生のやる気に二相性がみられる。研究を行う上で困難なことでは、文章にすることが困難であり、統計処理が苦手であることがわかる。次いで研究のテーマを決めることであった。

卒業研究の最初で、既に困難を感じている学生がいる現実がある。

## 6. 終わりに

本学学生の卒業研究の研究課題の傾向については、実習で得られた課題を研究課題とし、自己の体験を通して考えていく学生の姿勢は評価したいが、一方で学校の組織や社会的な視点までは持てていない現状がある。2年課程における限界など様々な内的要因の可能性は否定し得ない。

本研究の目的は、卒業研究における研究課題の傾向から、今後の卒業研究への教育的アプローチの示唆を得ることであった。研究のまとめとして、今度の課題について述べる。

本学では担任制をとり、卒業研究指導を行っている。また、養護実習Ⅱの中で、卒業研究についての指導を2年生の前後期で全体に8回、個人面接を8回、指導している。学生の理解力や、学力、問題発掘力、研究熱等を勘案すると、もっと具体的な方法、例えば、1年時に提出する教育実践演習での、各教科の学びの記録をポートフォリオとして保管し、それを基に個々に、担任と共に課題を見つける作業ができる時間の確保、また、担任制の利点を生かしながら、ゼミ形式の教官の専門性や、先行論文や事例研究を共に読み込む等集団討論研修（自分の理解していることを他人に説明することの困難さを理解すること・同時に、人に説明することで自分の理解が深まること・考えていることを頭にとどめておくだけでは意味がないこと）を組み込んだ卒論指導を実施することが必要と考える。

また、養護実習期間中での研究が多い中、実習校の指導養護教諭との卒業研究に対する共通理解を持つための場が必要である。<sup>7)</sup>が、実習校が広域にわたる本学では困難である。看護学において実習指導体系化が促進され、指導者講習会が行政主導で各地で行われている。

このような体制作りが、養護教諭養成の行政の立場で行われ、指導養護教諭として、学生の研究指導にも力を頂きたい。

卒業研究論文指導については、分野を問わず、多数の大学で現代学生の現状に合った方法論を打ち出している。卒論無用論、PCによる時間を問わず教官に指導してもらえ体制づくり<sup>8)</sup> テーマをゼミ教員の方から、数例あげ、その中から抽出させる方法<sup>1)</sup> 企業とのタイアップによるテーマの選定法<sup>9)</sup> 脳科学によるモチベーションを高める方法論を基に細分化した卒業研究の指導法を作り、学生をやる気にさせ、明確な目的意識を持たせる。<sup>10)</sup>等枚挙にいとまがない。本学に取り組める方法論を探したい。

本学の学生にかなり共通してみられる特徴として、課題に対して答えるけれど、その枠を自分で超える、自分で課題を作る（問題意識を持つ）という点で積極性に欠けるように思われる。養護教諭の資質の向上が叫ばれ、養護教諭の力量が問われる今、そうした要請に答える教育、知識の理解のみでなく、実践力、想像力、人間性など複数の観点から捉えるべきであり<sup>11)</sup>、管理能力・教育能力・マネジメント力・コーディネイト力を高めるための科目を設定する等<sup>12)</sup>を積極的にを行い、発展させていかなければならないと考える。

## 7. 参考文献：引用文献

- ①. 帝京短期大学生生活科養護教諭コース卒業研究論文集 第1巻 平成19年度卒業生
  - ②. 帝京短期大学生生活科養護教諭コース卒業研究論文集 第2巻 平成20年度卒業生
  - ③. 帝京短期大学生生活科養護教諭コース卒業研究論文集 第3巻 平成21年度卒業生
  - ④. 帝京短期大学生生活科養護教諭コース卒業研究論文集 第4巻 平成22年度卒業生
  - ⑤. 帝京短期大学生生活科養護教諭コース卒業研究論文集 第5巻 平成23年度卒業生
  - ⑥. 帝京短期大学生生活科養護教諭コース卒業研究論文集 第6巻 平成24年度卒業生
- 1) 塩見昇 教育学教室における卒論指導の試み 大阪教育大教育学論集 70 1975
  - 2) 日本における大学設置認可に係る基準について教育課程の単位3項 文部科学省
  - 3) 「論集」私立麻布中学校・高等学校編
  - 4) 帝京短期大学、養護教諭教育実習要領
  - 5) 瀧澤利行編 基礎から学ぶ学校保健 建帛社 4 2008
  - 6) 川喜田次郎 問題解決学K J法ワークブック 講談社 1970

- 7) 竹鼻ゆかり他 東京学芸大学紀要 養護実習における学生と養護教諭の学びの検討56 2010
- 8) 嶋津祐樹 卒業研究を支援するための環境構築 公立はこだて未来大学大学院 2010
- 9) 黄啓新他 卒業研究を活性化するための新しい取組 工学教育研究講演会講演論文集 2011
- 10) 幸野奨他 卒業研究のモチベーション向上事 工学教育研究講演会講演論文集 2011
- 11) 黒沢宣輝他 短期大学部における養護教諭要請の今後の在り方に関する研究 名古屋学芸大学短期大学部 1 2009
- 12) 岡山大学教育学部 教職実践ポートフォリオ 第2版 3-5 2011